

ミナミキイロアザミウマ情報第1号

平成30年11月30日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

今後の発生状況に注意！

1 発生状況

- (1) 11月下旬に実施した巡回調査の結果、ナスにおけるミナミキイロアザミウマ（図）の寄生葉率が13.9%（平年6.5%、前年4.6%）で、過去10年と比較して最も高くなりました。キュウリにおいては、0.3%（平年0.3%、前年0.0%）で平年並でした。
- (2) 平成30年11月29日発表の名古屋地方気象台1か月予報では、向こう1か月の気温は高い確率70%と予想されており、本種の増加に好適な条件が続くと思われまます。



図 成虫

2 防除対策

- (1) 青色の粘着板などを利用して発生状況をよく観察し、早期発見に努めましょう。
- (2) 本種の発生を認めたら、下表を参考にして、密度の低いうちに防除しましょう。
- (3) 本種は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統（IRACコード参照）の薬剤の連用は避けましょう。
- (4) 天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの影響に注意して薬剤を選定しましょう。

表 主な防除薬剤

作物名	適用害虫名	農薬名	使用時期	IRACコード	
ナス	アザミウマ類	アグリメック	収穫前日まで	6	
		ファインセーブフロアブル	収穫前日まで	未記載	
		モベントフロアブル	収穫前日まで	23	
		ミナミキイロアザミウマ	コテツフロアブル	収穫前日まで	13*
		ベストガード水溶剤	収穫前日まで	4A	
きゅうり	アザミウマ類	アグリメック	収穫前日まで	6	
		ベネビアOD	収穫前日まで	28	
		ミナミキイロアザミウマ	コテツフロアブル	収穫前日まで	13*
			ベストガード水溶剤	収穫前日まで	4A

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2018/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

3 その他

キュウリにおいては、本種が媒介するメロン黄化えそウイルス（MYSV）による黄化えそ病の被害が懸念されます。本種の密度低下を徹底するとともに、発病株は伝染源となるので、見つけ次第除去しましょう。